

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	平成31年4月24日
------	--------	-----	------------

<p>[1]教育方針</p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する 協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する 創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する 実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>[2]教育目標</p> <p>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てる。 ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。 ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。 ④キャリア教育の充実により人生を生き抜く力を身につけ進路の実現を図る。 ⑤生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
<p>2 重点項目に係る目標・成果</p>	
<p>目標</p> <p>目標達成のための平成30年度重点目標 教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科の専門領域の基礎基本を身につけさせる教育を推進する。 ・基礎基本を応用した技術や高度な内容に関する調査・研究などに挑戦する。 ・学びの成果を活かし、資格・検定取得に積極的に取り組む。 ・農業学科では農業生産工程管理（GAP）の平成31年度認証を目指すとともに、HACCPの取得に向かって調査・研究を進める。 ・5Sを推進することで、職業人としての態度や姿勢を培い、実践力を身につける。 ・これらの取組を通して地域の産業を担う専門人材を育成する。 <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。 ・ICTの活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に比べて資格・検定の合格者は増加した。 H29年度689→H30年度908 ●HACCPは、平成31年1月に認証番号80で鳥取県版を取得した。 ●GAPは、農業学科で取り組みが進んだ。予定通り平成31年度中の取得を目指す（令和元年6月受審予定）。 ●協同学習、iPadを活用したICT教育の教職員研修会、授業研修会などの開催を通して深化を図った。

<p>・専門教科と普通教科の連携等の工夫を行い、学力の向上を目指す。</p> <p>・生徒の仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。</p> <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <p>・地域や産業界と連携を進め、学校での学びを社会で生かす能力の基礎を育てる。</p> <p>・地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入することで、生徒の専門力を高める。</p> <p>・異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、共に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。</p> <p>(4) 人生を生き抜く力の育成</p> <p>・基礎学力の向上も含めキャリア教育を充実する。</p> <p>・インターシップやスーパー農林水産業士等の長期就業体験などの取組を通して、鳥取県の産業を担う人材を育て地域に貢献する。</p> <p>(5) 規範意識を育て安全・安心な学校をつくる</p> <p>・高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開くことができる意欲と素直さを身につけさせる。</p> <p>・生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。</p> <p>・教職員が方向を一つにし、保護者や地域と連携しながら明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。</p> <p><数値目標></p> <p>○取得資格の目安・・・</p> <p>資格取得・検定数（卒業までに3個以上）</p> <p>○ベーシックを基礎として、計画的に継続的に資格取得や検定合格に臨む。各学科、コースによって行って受験できる資格数が異なるが、1年から2年時の取得を目指す。</p> <p>・・・概ね受験者の80%以上の合格を目標とする。</p> <p>○アドバンス、スペシャルは、2年後半から3年前半にかけて取得を目指す。難易度は高くなるが、専門教科や実習と関連付けて、学習成果の深化を図り、取得を目指す。</p> <p>・・・概ね受験者の50%以上の合格を目標とする。</p>	<p>●理科（生物）と農業学科で連携授業を実施した。来年度は理科（物理）と工業学科及び公民科と情報学科、家庭学科などにも拡大する。</p> <p>●各学科で様々な校種（小中学校・特別支援学校・高等学校・大学）、福祉施設（高齢者、障がい者）、病院、保育所、公民館、企業等と連携を深め、生徒の専門性の向上を図った。多くの方との交流を通して、共育と共生について深く学ぶことができた。</p> <p>●基礎力診断テストでDゾーンの割合が減少した。</p> <p>●東部地区の各企業等の協力のもとインターシップを全2年生に4日間実施した。</p> <p>●本年度はスーパー農林水産業士に2名認定された。</p> <p>●5S教育の推進やHACCP、GAPの取得活動を通して規範意識や環境に関する意識を高めることができた。</p> <p>●学校生活、特に学業や部活動、基礎学力の向上と専門の知識・技能の習得を目標とした指導に力を注ぐことを確認した。</p> <p>●アルバイト等の見直しを通して生徒指導の方向性を教職員で確認し方向性を示した。</p> <p>目標設定して1年目で、判断が難しいが次年度へ良い方向に進んでいるように思われる。</p> <p><ビジネス文書実務検定合格者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(H29)</th> <th>(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3級</td> <td>106</td> <td>→ 145</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>23</td> <td>→ 30</td> </tr> <tr> <td>1級</td> <td>3</td> <td>→ 2</td> </tr> </tbody> </table> <p><日本漢字能力検定合格者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(H29)</th> <th>(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3級</td> <td>6</td> <td>→ 75</td> </tr> <tr> <td>準2級</td> <td>9</td> <td>→ 12</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>2</td> <td>→ 9</td> </tr> </tbody> </table> <p><実用英語技能検定合格者数></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>2級</td> <td>0</td> <td>→ 2</td> </tr> </tbody> </table>		(H29)	(H30)	3級	106	→ 145	2級	23	→ 30	1級	3	→ 2		(H29)	(H30)	3級	6	→ 75	準2級	9	→ 12	2級	2	→ 9	2級	0	→ 2
	(H29)	(H30)																										
3級	106	→ 145																										
2級	23	→ 30																										
1級	3	→ 2																										
	(H29)	(H30)																										
3級	6	→ 75																										
準2級	9	→ 12																										
2級	2	→ 9																										
2級	0	→ 2																										
<p>3 実施事業</p>																												
<p>【高等学校課事業】</p> <p>(1) 地場産プラザ「わったいな」における生産物販売実習</p> <p>農業学科の生徒が栽培・加工した生産物を直売センター</p>	<p>●計4回実施した。自分たちが生産した作物や加工品の販売を通して、達成観や有用観そして本校に対する理解を深めることができた。</p>																											

で販売することで、流通・販売までを総括した学習を実践する。土曜日に実施することで本校教育内容を多くの県民にアピールし、生徒は達成感や満足感を得るとともに販売技術や接客マナーの向上につながる活動である。

(2) 外部人材活用事業

それぞれの専門分野の講師から直接、知識や技術を学ぶことで専門性の深化と応用を図る。また、地域と連携するなかで地域産業の理解や地域課題の解決能力を身に付ける。

(3) 「ようこそ高校へ」版キャリア塾

キャリア教育を推進するため、県内の有識者や本校を卒業した社会人から社会構成員として求められることや社会との関わり方、自己実現等について講義を受ける。良き社会人、社会の構成者を目指すためにも高校生活を充実させ、常に基礎学力の向上を図ることが大切であることを理解する。

(4) 東部地区専門高校協同企画「ふるさと手づくりまつり」

東部地区の専門高校が協同でその教育内容を発信し、東部地区の産業やものづくりの大切さを伝えるイベントである。各校生徒が、地域住民や小中学生を対象に各校の専門性をアピールする機会にはじめて取り組むものである。

【独自事業】

(1) 人生を生き抜く力の育成

ア. インターンシップ

2学年175人が鳥取県東部地区の企業・施設等において本校で学んだ専門教育等の学習成果を発揮するとともに、勤労観・職業観の育成や社会との関わり方、自分自身の素養をみつめる機会として実施する。

イ. 上級学校・企業見学

県内の上級学校や関連企業の見学をとおして、地域教育や地域産業について理解する。また、実際に働いている方や施設や設備の様子から、自分自身を働いている姿を想像し、将来の進路選択に役立てる。

(2) 専門力を高める教育の推進

ア. 技術挑戦事業

①校内緑化プロジェクト等【緑地デザイン科】

校内敷地内に庭園や樹木見本園を設計・施工し校内緑化を図るとともに、日ごろの学習成果を発揮する機会とする。また、校外での出展をとおして本校での学習成果をアピールする。

②プリザーブドフラワーによるフラワーアレンジメント技術の向上【緑地デザイン科】

フラワーアレンジメント技術の中でも、特に注目を集めているプリザーブドフラワーの技術習得をとおして生徒の学習意欲の向上を図る。作品制作や展示することで本校のアレンジメント技術を紹介する。

●各科で実施。地域の方々から高い技能や今後広まっていくと考えられる最新の知識や技術をご教授いただき、検定合格率の向上や学習意欲の向上につながった。

●2年生は10月に実施。インターンシップへの事前準備として有効であった。

●多くの関係機関のご尽力をいただき、成功裏に終了した。350名を超える来場者に、各専門高校で取り組まれている教育内容を体験していただき理解を深めることができた。また、各校生徒は学習成果のアウトプットの実践につながり、また、ものづくりについて自信を持つことができた。

●多くの企業等の協力のもと無事終了した。アンケートから概ね好印象をいただいたが、一部生徒の主体性や挨拶等をもっと指導してほしいという意見をいただいた。事前指導の在り方を検討したい。

●鳥取大学、看護大学、鳥取短期大学、農業大学校等の上級学校、また、グッドヒル、明治製作所、バルコス等の企業見学で進路に対する意識を高めることができた。

●花と緑のまつりへの作品展示や校内樹木の管理を実施した。

●プリザーブドフラワーの講習会を開催し、作品を制作した。イベント等で展示し、研究成果発表会で報告しその技術の周知に努めた。

③Ene - 1 GP Suzuka への挑戦【電子機械科】

蓄電池とモータの組み合わせによる電気エネルギーの効果的な利用技術を研究する。ものづくりに興味を持たせ、製作技術の向上や問題解決能力の育成を図る。鈴鹿サーキットでの走行を目標に意欲的に取り組む。

④ミュージックロボットシステム「ミューズ」の製作研究【電子機械科】

「工業実習」等で学習している Arduino マイコン制御をコアとして用いることで生徒が学習成果を強く体験できる。自動演奏楽器の種類を増やし、ロボットオーケストラを目指し、ロボットシステムの構築を進展する。

⑤ファッションショー【人間環境科】

「ファッション造形基礎」の授業の成果発表として、「青陵祭」でファッションショーを実施。作品製作からものづくりの楽しさや達成感を、さらにショーの企画や運営に携わることで主体性を身につけさせる。

イ. 調査・研究

①GAP取得～より安全・安心な湖陵ブランドの創造～【食品システム科】

生徒が主体的に GAP 取得に取り組むことで農業生産の安心・安全はもとより環境保全や労働保全に対する関心を高め、農業経営を科学的・社会的に捉える技術を身に付ける。5S教育やデータ管理などのマネージメントを重視することで生産の効率性を上げ、結果的にそれが湖陵ブランドへの確立につながる活動となる。

ウ. チャレンジ資格

①湖陵版資格スタンダードの決定

各科で重点的に取り組む資格を生徒にわかりやすく説明するため、専門科目や特に重要視する部分を明示し、学習意欲の向上や課題研究への接続を円滑にすることを目的とする。本校における資格見える化を図り、教科指導の充実や生徒の資格取得をしっかりと支援する。

②緑地デザイン科技術講習会

専門資格である「園芸装飾」、「フラワー装飾技能検定」、「造園技能検定」の取得に向かって地域の関係者を講師として迎え、高い技術の習得するものである。

③技能オリンピック・若年者ものづくり競技会

標記の大会への出場を目標とすることで生徒の意欲向上や専門技術の向上につながるものである。地域産業との連携が深まる。また、技能五輪大会のステップ大会として開催される若年者ものづくり大会にも生徒に取り組みせる。

④検定取得による技術力向上（旋盤部門・電子機器組立部門）

普通旋盤や電子機械組立の技能検定3級合格を目標として、地域の熟練技能者から技術指導を受ける。本年度は一部の生徒ではあるが、2級取得にも取り組ませた。

●科学技術研究部の活動と関連付け、全国大会への参加をはじめ、湖陵フェスタ等でも広く技術を周知した。

●課題研究のテーマとして、演奏装置の種類を増やし、湖陵フェスタや校外イベントでの披露し、研究成果を周知した。

●学校祭で実施した。限られた期間内ですっかりと作品を仕上げ、多くの関係者に披露した。科のイベントとして縦断的な取り組みとなった。

●GAP取得に向かって教員が研修や講習に積極的に参加した。H31年度取得に向けて取り組みを強化している。

●シラバスに資格取得と関係する部分について記載することで、より具体的に資格取得をイメージしやすいように工夫した。

●昨年度に比べ、検定合格者が増加した。

<園芸装飾技能士合格者数>

(H29) (H30)

3級 3 → 21

<造園技能士合格者数>

(H29) (H30)

3級 10 → 14

2級 2 → 2

<フラワー装飾技能士合格者数>

(H29) (H30)

3級 10 → 4

●県大会を経て、技能オリンピックに出場した。入賞等には至らなかったが実力は発揮できた。その取り組みを農業学科のプロジェクト発表会で紹介し、他の生徒の目標となるように設定した。

●校外の熟練技能者から技術はもちろんのこと、態度や姿勢を学ぶことができた。

<旋盤部門合格者数>

<p>エ. 社会に開く学びの推進</p> <p>①異世代交流事業</p> <p>高齢者、障がい者、幼児等との交流をとおして、机上で体験することのできないつながりを感じることができる。この体験をとおして専門科目の教育内容の確認やの対人スキルの向上に取り組むことができる。また、小学校、中学校との園芸交流では、生徒が指導することで実践力を育成する。</p> <p>(3) 他者と協働して学ぶ</p> <p>ア. 進路実現へ向けた学び支援・学習セミナー</p> <p>本校生徒の進路状況は、例年約6割が4年制大学や短期大学、専門学校への進学している。大学等への進学、特に国公立大学や近年希望者が増加している看護系専門学校を目指す生徒にとって、入学試験に合格できる学力をつける必要がある。そこで、放課後、本校教員の補助として大学生を招き、生徒への学習を支援してもらうことで、より効果的な学力の定着を図ることができる。</p>	<p>(H29) (H30)</p> <p>3級 1 → 1</p> <p><電子機器組立部門合格者数></p> <p>(H29) (H30)</p> <p>3級 2 → 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間環境科/高齢者福祉施設、重度心身障がい者施設、小学校、保育所・幼稚園等 ・緑地デザイン科/小学校、中学校、特別支援学校 ・情報科学科/小学校、中学校、特別支援学校、公民館 ・食品システム科/中学校、公民館、高等学校、企業 ・電子機械科/中学校、わらべ館 <p>多くの交流事業を通して、企画力、主体性、等を習得し、多くの方との交流を通して、共育と共生について深く学ぶことができた。</p> <p>●学力試験の伴わない入試を利用するケースがほとんどで、学習会の在り方や位置づけを根本から検討する必要がある。</p> <p>鳥大2、看護大1、農業大学校1、医療系専門学校等</p> <p>●放課後実施している2年生のボランティア学習会への参加が少なかった。</p>
<p>4 総合所見 (成果・評価)</p>	
<p>地域との連携を通して、様々な観点から専門性を深めることができた。また、資格検定についてわかりやすく明示し、生徒が意欲関心を持てるように整備したこともあって、資格検定の受験者・合格者が増加した。</p> <p>5Sの推進に加え、農業学科では検定HACCP認証を取得し、来年度のGAP取得に向けても見通しがつくなど学校全体に環境衛生や安心安全の意識が向上した。来年度の引き続き各事業に取り組みたい。</p>	